

一般社団法人あいあいネット

年間活動報告

2023 年度(2023 年 7 月～2024 年 6 月)



一般社団法人あいあいネット

(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内

Tel 050-3754-5971 URL: <http://www.i-i-net.org/>

1. 西部バリ国立公園周辺地域での活動

前年度から引き続き、現地 NGO の F2BLEST（あいあいネットの現地専門家らが結成した団体、2022 年 10 月の法人格取得に伴い IINET から名称変更）による「インドネシア・西バリの自然保護地域周辺村における、環境教育と「体験型観光」振興を通じた住民主体の環境再生・保全活動」を支援しました。これまでと同様に、F2BLEST 地球環境基金からの助成（2023～2024 年度）を受け、あいあいネットは日本側代理人として関与しました。この活動では、西部バリ国立公園周辺村の小学校で 2020 年度から実施してきた、地域の固有種かつ絶滅危惧種であるカンムリシロムクの保護を中心とした環境教育について、県行政の協力もとりつけて、より多くの小学校に広げるとともに、子どもたちやその保護者らの環境保全活動（ゴミのリサイクルやクリーンアップ、植樹等）を促進し、さらにそうした活動を「体験型観光」として訪問者へ提供できるようになることが目指されています。2023 年度は環境教育シラバスの改訂を行うとともに、新規 1 校を含む 2 村 4 校で 4 年生～6 年生を対象に環境教育を行い、新たに 2 村 10 校での新規実施に向けて準備を進めました。また身近な環境保全（カンムリシロムクの保護に加えて、植樹、ゴミの減量や資源化等）に取り組む地元住民による環境保全ファイターズが 2 つの村で 3 グループ結成され、さらに今後活動を展開する可能性がある 7 グループが特定されました。さらに学校の環境学習に参加した子どもたちによる「ちびっ子ファシリテーター」を対象にしたカンムリシロムク観察会を実施するとともに、カンムリシロムクを観察するトレッキングルートの開発やカンムリシロムクの生態についての研修が環境ファシリテーターを中心に実施され、観光パッケージ作りの準備をしました。



校外授業で家庭ごみからの堆肥づくりを学ぶ子どもたち

こうした活動と並行して、F2BLEST は西バリでの活動拠点として、周辺村の一つであるギリマヌク村に事務所を開設しました。同団体のリーダーであるエリザベス（エリス）は前



F2BLEST 事務所に開設した RELA とエリザベス

年に日本を訪問し、あいあいネットの仲間たちとの交流を通じて、地域の人たちの「居場所作り」の重要性を痛感したそうです。F2BLEST の事務所の一部を「Rumah Edukasi Lingkungan Alam（RELA＝自然環境学び舎）」として地元の人たちに開放し、住民たちの自主的な活動の場となるよう、ファシリテーションを始めました。

あいあいネットによる西バリでの活動は 2008 年から継続していますが、本年度の活動は上述の F2BLEST が中心となって行い、あいあいネットは日本からモニタリングを行うとともに、役員 2 名が現地に赴き、現地で活動を推進する人たちとの交流や学びあいを通じ、活動の進捗確認や助言を行っています。

2. 西バリと徳之島・佐渡島の子どもたちを繋ぐオンライン交流

インドネシア・西部バリ国立公園周辺村と、新潟県佐渡島、鹿児島県徳之島を結び、子どもたち（小学校高学年～中学生・高校生）による実践的な環境学習や自然観察・モニタリング活動の成果や課題について経験交流・学びあいを行うことで、地域の未来を担う子どもたちの「自然と共生した暮らし」への関心を高め、持続的な活動展開へつなげることを目的として、りそなアジア・オセアニア財団の助成を得て、2022 年度から 3 年間の予定でオンライン交流プロジェクトが始まりました。2 年目の 2023 年度は、オンラインによる西バリ・佐渡・徳之島の子どもたち同士の学びあいに加えて、日本の現場で実践する活動者が西バリを訪問し、環境学習に参加する子どもたちとの交流や、環境保全に関わる住民グループとの学びあいを行いました。



環境学習に取り組む子どもたちとむーこさん

2023 年 7 月、徳之島虹の会事務局長の美延睦美さん（むーこさん）があいあいネットの 2 名（山田理恵・長畑誠）とともに西バリへ渡航し、環境学習に取り組む先生や子どもたち、F2BLEST のメンバーらと交流し、助言指導を行いました。虹の会は 2022 年に世界自然遺産に登録された徳之島で 10 年以上、島の貴重な自然や代々受け継がれてきた文化を守り、若い世代に繋げていく活動を行っています。むーこさんが、オンライン交流に

参加している小学校や村の住民グループへ訪問したことで、子どもたちの環境学習の意義がより強く認識され、今後の活動への刺激となりました。また現地で活動する NGO 「F2BLEST」の事務所で、地域に根ざした環境保全やエコツーリズム活動に関する徳之島の事例報告と意見交換を行ったことで、F2BLEST のメンバーたちが自らの活動を振り返るきっかけとなりました。さらにむーこさん自身にとっても、「遠くて近い島」となったバリ島での環境保全に取り組む人たちとの出会いを通じて、世界自然遺産となった徳之島の「宝」を地域の人たちとともに守り伝えていく活動へのさらなる意欲につながった、とのことでした。

オンライン交流については、まず 2023 年 11 月 16 日の 9:30 - 11:20（日本時間）、佐渡市立新穂小学校とジュンブラナ県公立第 6 イスラム小学校とを結んで実施されました。新

穂小学校は5年生の学習テーマである「佐渡の田んぼ・稲作」について、第6イスラム小学校からは郷土料理の「アヤムブトゥウ」の作り方やそこに使われるスパイスやハーブを育てる実習について、それぞれ報告しました。さらに両校の子どもたちが身近な暮らし等についてお互いに紹介しあい、質疑応答する時間を設けました。両校とも前年度と同じ子どもたちが参加する形であり、お互いへの興味関心がより深まっていたようです。



佐渡・新穂小でのオンライン交流

徳之島と西バリのオンライン交流は、2024年1月25日13:45 - 15:30に伊仙町立面縄小学校とムラヤ村第5小学校とを結び、同1月26日14:05-15:55に伊仙町立伊仙中学校とギリマヌク村の公立宗教中学校とを結んで実施されました。面縄小学校からは総合的な学習の一環として、学校のすぐ前の浜にやってくるウミガメの生態や産卵について調べたことを発表。ムラヤ村第5小学校からは近くにある国立公園の森から学校にやってくる野生のサルのいたずらへの対策や、学校でのゴミ分別や堆肥作りについて発表しました。伊仙中学校からは「伊仙町の宝さがしエコツアー」「徳之島の農業の可能性」「世界遺産の森の生態系を守ろう」「世界の海をマイクロプラスチックから守ろう」という4つのテーマでグループに分かれて調べたことを発表し、ギリマヌク村公立宗教中学校からは学校にやってくる野生サルの害を防ぐために、(サルが餌とする)校内のゴミ処理について、堆肥化やプラゴミのリサイクルの試みを発表しました。

3. 地域に学ぶ研修事業

あいあいネットが長年受託して実施してきたJICA横浜課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」は久々の対面での実施となり、8か国8名（ジョージア、ガーナ、パキスタン、パレスチナ、シエラレオネ、南スーダン、タンザニア、ウガンダ）が参加して、2月1日～3月5日の日程で行われました（横浜国立大学大学院の留学生1名＝インドネシア＝がオブザーバーとして参加）。

本研修の設計は、研修員自身が生まれ育ったり現在暮らしていたりするコミュニティの一住民としての経験を振り返り、コミュニティ開発への視点を住民側に転換することを出発点に、開発ワーカーとコミュニティの従来を逆転する「パートナーシップ構築」と、住民が話したいことを傾聴する中から人々の思いや力を浮かび上がらせる「FALCON」の手法を、まずワークショップで学ぶというものです。そして、手法の試行と振り返りを繰り返すフィールド実習を通して手法の習熟度を高めつつ、都市部と農村部それぞれのコミュニティ開発経験を学び、実習での学びと手法のまとめをおこなった後に、アクションプランを作成・検討するという組み立てになっています。

本研修の中心は、プログラムの全体を通して研修員自身の経験の振り返りや相互の学びあいを促すワークショップとなっています。研修員が受身の姿勢で学ぶのではなく、「自ら発見する」ことを重視する研修方法は、住民の主体性を引き出すファシリテーションにも共通する点であり、研修員が自身の研修受講を通してこの原理を体得する仕掛けでもある。従って、ワークショップや実習の後には必ず研修員が自らの学びを振り返るコマが配列されました。



徳之島でのフィールドワーク

一方、教室で学んだファシリテーション手法を現場で使えるようにするには実践練習が不可欠です。そこで、研修前半には横浜市保土ヶ谷区の千丸台団地で、また中盤には研修員が多少とも母国に似た環境で手法の試行をおこなえるよう、人々の絆が強く、山に森、畑、海が混在する環境で、冬でも暖かい鹿児島県の徳之島でファシリテーション手法を試行し、結果をワークショップで振り返ることを繰り返しました。

研修員が身につけようとしている手法の習熟度を高めるとともに、住民の方々と良好な関係を築き、地域の力を実感しながら、高齢化や貧困という都市部の課題に対する住民主体の取り組みと、農村地域の地域資源を活用した住民主体の取り組みを学ぶことができるという構成です。

上記フィールドワーク先として、これまでも継続して受け入れをお願いしてきた、横浜市保土ヶ谷区の千丸台地区社会福祉協議会の皆さま、そして鹿児島県奄美群島の一つ、徳之島のNPO法人徳之島虹の会や地域の住民組織の皆さまには、大変お世話になりました。おかげさまで本年も充実した学び、学びあいの場



徳之島虹の会での料理交流

を作ることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年度から実施されてきたこの研修は、本年度が最後となりました。住民主体のコミュニティ開発、特に「住民が主体となって協働する活動を生み出すファシリテティブな手法」は、複雑な問題が錯綜し、多様な関係者が存在する現代社会の諸課題解決にあたり、欠かせない考え方であり技法であると考えられます。10年以上にわたり当研修を実施することで培われてきた当会のコミュニティファシリテーションの技法や研修ファシリテーションの知見は、今後も多様な場で活かすことができると信じています。

4. その他の活動と組織・広報

- JICA 研修の受け入れ等でお世話になった、横浜市保土ヶ谷区の「千丸台地区社会福祉協議会」を本年度も数回訪問し、活動者の皆さまと交流しました。
- 前年に引き続き、明治大学ガバナンス研究科によるマレーシア政府のサラワク州公務員研修（横浜市鶴見区、東京都墨田区、長野県東御市の視察プログラム）に協力しました。
- インドネシアの長年の活動仲間である Elizabeth Rahyu Prihatini さん（エリス）が前年に引き続き来日し、あいあいネットのメンバーと交流・情報交換・話し合いを行いました。